

# おうちの図工室・美術室

## 〇〇な色ギリギリライン 実践報告

岡山県立玉島高等学校 1 年生（1 学期）妹尾佑介先生の実践 授業時間 2 時間

### 実践の様子（語りかけ、子どもたちの様子）

STEP1：知っていること、出来ること、感じることで子ども達はできている。

Q：好きな色のギリギリラインをつくってみてください



好きな色 = 白、(水色)、紫、黄色

「少しずつ色を足せばグラデーションになるはず…」



↑濃い青より白に近い青が好きなので白い絵の具も水色を足した。



好きな色をつくることは楽しいようで、多くの生徒がすぐに取り掛かっていました。ぎりぎりの色を調整するのが難しかったようですが、中学校までの経験を活かして、上手に色の変化をコントロールできている生徒が多かったように思います。

STEP2：Aの範囲の外に、自分の知らなかった「何か」（新しい価値のタネ）を見つける



混ぜた瞬間は違うかなと思ったけど案外いい色！宇宙みたいな色になった

紫をつくるのが難しいとは

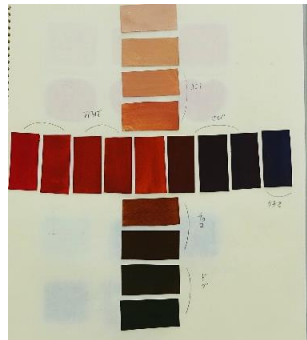
思やがた。

好きな色のぎりぎりを作る中で、色の面白さや意外性に驚く声が聴こえました。「あれ？思った色じゃない！」「じゃあこれとこれを混ぜたらどうなるんだろう？」こうした素朴な疑問も、子どもたちが見つけた「何か」のひとつだと思います。

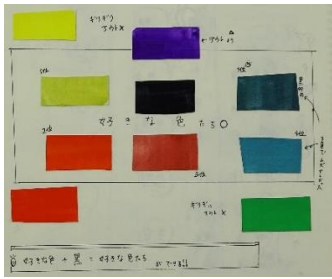
Q：自分でテーマを決めて〇〇のギリギリラインを探究してください

Q 茶色を混ぜると（ぶくぶくのか、またぶくぶくか）

A 白混ぜる以外全部（ぶくぶくこれい（白が少しいい）茶色は汚いイメージがあったけど、混ぜると深み色でいい有能。



# おうちの図工室・美術室

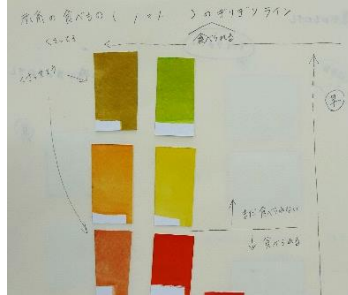


好きな色の組み合わせの実験↑

赤系の食べものの  
食べられるかどうか  
のギリギリライン→

一瞬輝かほと思っそのでモゴと見て  
いくら青に見えたッ、色は不思議だと思った。

↑自分の認識が変わる実感は  
自己を深めるための大切な  
感覚です。



自分の知らなかった「何か」のタネになることば

自己を深める

「案外渋い色もかっこいい！」  
「あれ？この組み合わせダメかも…」  
思い込んでいた自分の「好き」の判断基準が  
少し揺らいだようです。自分の価値観、見え  
方の変化を実感することは大切です。

共感性

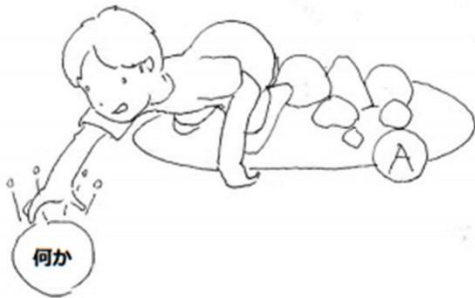
「アイスの色みたい」「分かる！」  
「これ黄色？」「緑じゃない？」「えー」  
経験や感覚が共有できるかどうかは人そ  
れぞれ。気心の知れた生徒同士でも、互い  
の微妙な違いに気づくことは大切です。

深く見つめる

「おいしそうな色…」  
普段あたりまえに食べている野菜の色  
も、少しの色味の違いでおいしそうに見  
えたり、まずそうに見えたりします。こ  
のように五感の記憶と結びつけながら、  
色を観察すると見方が深まります。

## STEP 3 : 夢や願いの達成のために計画を立てやり遂げる

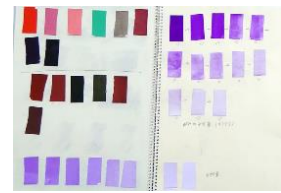
図工室・美術室は、表現する過程を、  
自分自身だけでなく、友達とも共有できる空間



微妙な違いだけど、この  
色が好き。今度は違う色  
で試そうかな。

↑試行錯誤のうちに自然と  
「試そう」とする姿を  
期待します。

試行錯誤の結果をまとめます。気づきや感覚が整  
理され、学びにつながっていきます。



## STEP 4 : 発見したものに新たな自分なりの価値づけ

Q : 発見した色カード、半分はノートまとめ用  
もう半分は自由に使えるよ。どう活用する？



掴み取ったものに  
自分なりの「価値づけ」  
「わかった」「できた」  
の声がその合図

このとき、Aの範囲が広くなり、  
自分の「社会」が広がります

みんなで大きくて鮮やかな  
貼り絵を作って飾りたい

みんなの  
クレーターチョコに  
なるかな

自分の好きな色だけで絵をかく



発見した色カードの活用方法を尋ねることで自分たちが  
見つけた微妙な変化のある色が新しい活動に繋がって  
いくことを感じてもらいたいという意図で行いました。実際  
に、次の授業にカードの活用する時間をとったところ、あ  
るクラスでは相談して、貼り絵を制作していました。